

## 2019年度第1回大村知事と語る会

- 1 日 時 2019年10月31日（木）午前10時から正午まで
- 2 場 所 愛知県庁本庁舎 講堂
- 3 テーマ 国際的な交流拠点を目指して～Aichi Sky Expoオープンを契機に～
- 4 意見交換者（五十音順、敬称略）

岩瀬 正明	名古屋鉄道（株） 取締役 専務執行役員
片桐 正大	愛知eスポーツ連合 代表 名古屋王者（株） 代表取締役社長
加藤 勇二	愛知県農業協同組合中央会 専務理事
林 大策	愛知淑徳大学 交流文化学部 教授
松見 直美	知多半島観光圏協議会 事業推進事務所長
モルガン・シヨトウ・ウレール	愛知国際会議展示場（株） 代表取締役社長

【知事】 皆様、こんにちは。愛知県知事の大村秀章です。本日は、お忙しい中にもかかわらず、この知事と語る会に御参加いただきまして誠にありがとうございます。

この会は県の施策を推進する上でそれぞれの分野の第一線で御活躍されている方々から直接御意見をお聞きいたしまして、今後の県の施策の立案に役立てようという趣旨で2011年度から開催いたしております。

本日は、「国際的な交流拠点を目指して～Aichi Sky Expoオープンを契機に～」をテーマとして開催させていただきます。

今年の8月30日に延べ床面積9万平米を誇る国内初の国際空港直結型の国際展示場「Aichi Sky Expo」が常滑市の中部空港、空港島にオープンいたしました。国内外から約1,200名の関係者をお招きして開業式典を行ったほか、その式典後のオープニングイベントにおきましてはeスポーツとK-POPのライブエンターテインメントの祭典「AICHI IMPACT！2019」を開催し、3万5,000人の方に御来場いただきました。その後も多目的利用地を活用した音楽イベントや地域の観光をPRするイベントが開催されております。

今後、様々ジャンルのイベントや会議に活用いただいて、Aichi Sky Expoが国際的な交流拠点となり、本県の産業力の強化と地域経済の活性化につなげていただければと

思っております。

今週も月曜日に中部圏知事会議をあそこでやって、去年10月にオープンしたフライト・オブ・ドリームズを見ていただき、また、LCCターミナルも見ていただいて、本体のターミナルで昼食を食べていただきました。

昨日は、愛知県社会福祉大会を展示場のAホール、コンサート仕様の柱のない天井高20メートルの空間でやりまして、8,000人の方に来ていただきました。いつも愛知県体育館をいっぱいにしてやっているんですが、今年オープンしたので、とにかくお試しに見てもらおうということでお越しいただいて、大変好評でございました。これを契機に少しでも知っていただいてまた来ていただければ、様々な行事、イベント等々に足を運んでいただければありがたいと思っております。この後も様々な行事、イベント、展示会、見本市が予定されておりますので、大いに期待したいと思います。

また、このAichi Sky Expoが国際的な交流拠点となり、愛知、中部の産業力の強化と地域経済の活性化につなげていければと思っております。

本日は、展示場の運営事業者、展示場を利用される方々、観光分野で活躍される方々、また、地域の関係の活動をされておられる方々にお集まりいただき、皆様方の日々の活動内容、そして、普段感じておられることなどをお聞かせいただき、そうした中からAichi Sky Expoのさらなる発展に向けて必要な視点、取組について御意見をたくさんいただければありがたいと思っております。

何せこの規模の展示場というのは、これでようやく日本で4つ目ということでありまして、次につくるという計画はありません。ないということなので、これをどういうふうに生かしていくか、使っていくかということをお皆さんの御意見をいただきながらしっかりやっていきたいと思っております。

そして、実際に企画して最初の予算を立ててオープンまで3年半の突貫工事でやりましたが、これだけの規模のものを毎回毎回というか、しょっちゅう、しょっちゅういっぱいにするというのは無理でございますので、ああいう大きなイベントから小さいものから取り混ぜながらどういうふうにやっていくか、これを生かしていくかということも含めて、しっかり皆さんの御意見をいただきながらやっていければと思っております。

4つということですが、1つ1つ事情を言うと、もう大分老朽化してきていて、今ある3つのうちの2つはもう30年以上経っていますので、そろそろどうするかということになってくるのではないかと。東京ビッグサイトだけがオリンピック後にまた拡大をしてい

くということでありましてけれども、あれも複雑なつくりになっているので、そこを含めてどうしていくか。そういったことを考えますと、施設的には一番最新の知見を取り込んでつくっておりますので、一番コンパクトで簡素で合理的ではないかと思っておりますが、今後どういうふうにもっていくか、ぜひ皆様の御意見、お知恵もいただきながら進めていければと思います。

どうか今日は何とぞよろしくお願い申し上げます。

【知事】 それでは、早速進めさせていただきますが、まずは順番にそれぞれ5分間程度で御自身の日頃の活動内容や、Aichi Sky Expoが国際的な交流拠点となり、地域の活性化、経済発展に資するために必要と感じておられることなど、御意見をお話しいただければと思っております。

それでは、先ほど御紹介をした順番にお願いしたいと思います。モルガンさんから岩瀬さん、加藤さんへ行って、片桐さんから松見さん、林さんということによろしく願いいたします。それでは、モルガンさんからよろしくお願いします。

【モルガン】 我々は、国際展示場というのはまず2つの戦略があると思っています。2つのビジョンがありますけれども、もちろん展示場は会社として戦略を立てる必要があります。当然イベントの誘致をするというのは重要なことであります。しかし、それだけではなくて、我々の戦略にはもう1つの柱があって、それは地域への貢献です。特にDESTINATIONという概念を強化する。ブランディングに貢献することです。

我々の運営している会社は、世界に既に発信しています。我々の会社の株主であるGLイベントは世界中で50カ所の展示場を持っていて、まず、展示場の運営に関して海外で経験された体験をこちらの方に持ってきてほしいと思っています。そして、海外の経験を持ってきて東京ビッグサイト、幕張メッセ、そして、インテックス大阪と差別化を図っていきたいと思っています。要するに我々は新しい国際基準に基づいた展示場の運営を日本で展開していて、そして、愛知から新しいビジネスモデルを紹介していきたいと思っています。

そして、GLイベントというのは世界中では50カ所の国際展示場を運営していて、合わせて3つの事業部があります。イベントの施設、設備を貸し出す。去年のアジア大会の時には施設を幾つか提供していたんです。そして、もう1つはイベントの開催、要するに主催者として事業を行っています。だから、MICE事業に関しては非常にたくさんの経験を持っていて、日本にそういう経験を持ってきたいですね。長期的には国内でも、海外からもイ

ベントを誘致していきたいです。

そして、さっき私が説明していたように、展示場の戦略だけではなくて、デスティネーションというのは我々の業界の中では重要なところであります。なぜかという、主催者がイベントを開催する前にちゃんと人が来るかどうか、どういうメリットがあるかということを検討しています。そして、主催者というのは民間企業でありますから、ちゃんと利益が出るかどうか。だから、アクティビティ、知名度を高めるためには、その戦略、知識のアピールをすることは重要であります。そのために我々は、Aichi Sky Expoというのは、エアラインとか、ホテル業界とか、地域のステークホルダー、もちろん民間企業にも声をかけています。

今、スクリーンには幾つかの動画が上映されていますけれども、こちらではGLが世界中で運営している展示場で、紹介しているのは展示場だけではなくて、デスティネーションの魅力ですね。これはブダペスト、必ず我々はデスティネーションの魅力を紹介します。その後はパリ、もちろんAichi Sky Expoも紹介しております。これはドバイですね。

ということで、Aichi Sky Expoも観光にも貢献もできるし、地元の方にも貢献できますし、それだけではなくて愛知県のポリシー、ビジョンにも貢献できると思います。そのために我々は将来的にSDGsとかに関するイベントも紹介していきたいと思っておりますし、新しいテクノロジー、イノベーションに関するイベントを誘致していきたいと思っております。

今御覧になっているのはリヨンですね。リヨンというのはGLイベントの拠点のまちであります。フランスにはパリとリヨンがありますけれども、今リヨンは2番目になっています。我々はAichi Sky Expoの営業のチーム、私を含めて、来週バンコクに行きますけれども、Aichi Sky Expoと愛知県の宣伝をしに行きます。センス・オブ・プレイスですね。その場所のらしさをアピールするのは我々のマーケティングの戦略でもあります。ということで、ブランディングは重要であります。あとはセンス・オブ・プレイスの魅力をアピールするというのは我々の仕事でもあると思っています。

当然、国際展示場というのはB to C、要するに一般の方、そしてエンターテインメントとかコンサートのイベント誘致は重要でありますけれども、B to Bも重要であります。要するに我々はどういうふうにイベントを誘致して、経済、あとは今社会が直面している問題をテーマにしてイベントを誘致することができるかどうかという役割もあると思っています。

ということで、貢献というのは地域のためでもありますし、あとは社会に対してで、GL

イベントのモットーというのは「ブリッキング・ピープル・トゥゲザー」であります。

【知事】 ありがとうございます。また後ほど御意見をいただければと思います。それでは、続きまして、名古屋鉄道株式会社専務の岩瀬さん、よろしく願いいたします。

【岩瀬】 ただいま御紹介いただきました名古屋鉄道の岩瀬です。

まずもって、日頃は大変私ども名古屋鉄道をはじめ、グループ各社が皆様方に大変お世話になっておりまして、この場を借りましてお礼申し上げます。

先ほども御紹介がありましたけど、私の現在の業務内容ですけれど、私は鉄道、バス、タクシーをはじめ、名鉄グループのホテル、旅館、百貨店や物流などのグループ各社の事業推進を担当しております。空港におきましては、空港までの鉄道、バスのアクセスはもちろんですが、セントレアホテル、それから、機内食を提供しております名古屋エアケータリングという会社を私どもで運営いたしております。

この8月末に日本で最大規模のAichi Sky Expoがオープンとなりまして、大きなイベントやアイドルのコンサートなどが開催されまして、空港へのアクセスを担う当社といたしましては非常にありがたいこととなっております。ただ、イベントによりましてはお客様がある時間帯に集中いたしまして混雑することとなります。私ども、中部国際空港駅や担当する乗務区などは事前にその情報をキャッチして、整理して、その需要予測に基づいて車両を増結したり、臨時列車を運行することなどをしてしております。おかげさまをもちまして、今のところ大きな混乱もなく、順調に輸送が続いております。

この9月8日ですが、中部国際空港駅の乗降人員が5万人を超えました。2005年のセントレア空港の開業の初日に5万人を超えましたが、それ以来、歴代2番目の輸送人員となりました。この日は乃木坂46の握手会と野外のフェス「WIRED MUSIC FESTIVAL」というのが行われていたようですが、そのおかげがありまして歴代2番目の記録となりました。ちなみに、国際展示場のオープン以後、中部国際空港の乗降人員トップテンの中に4日間ほどがもう既に入っております、お客様の利用が数字でもって明らかなっております。

また、私が今現在、社長をしておりますセントレアホテルも昨年10月に新館を増築いたしまして、381ルームの名鉄グループとしては最大規模の客室を持つホテルとなりました。こちらの方もAichi Sky Expoの開業により今のところ順調に推移いたしております。今後のeスポーツの関連のイベントや技能五輪・アビリンピックの開催の予定日にはもう既に満室に近いような状態となっております。

このホテルの私どもの宣伝でございますけど、アジアでも人気の高いキャラクターであ

ります「キティちゃん」で飾られた部屋を2ルーム持っておりまして、これは実を言いますと、空港ホテルでは世界でこのホテルだけでございまして、今後、もっとPRしなければならないと思っております。

いずれにしましても、このAichi Sky Expoが新たな市場を創造して提供してくれたわけです、私どもといたしましては、そのニーズに応じて、さらに使いやすい施設となるように、評価されるように協力していきたいと考えております。

【知事】 ありがとうございます。また後ほど御意見をいただければと思います。それでは、続きまして、愛知県農協中央会の加藤専務、お願いします。

【加藤】 愛知県には地域ごとに今20のJAがございます。組合員70万人の皆さんがみえますが、皆様方の営農と暮らしを支えて活力ある地域づくりに取り組んでおりまして、JAは、農産物の販売、生産資材の購買のみならず、金融とか共済、多様な総合事業という言い方をしておりますが、いろいろな事業に取り組んでおりまして、私どもJA愛知中央会というところはこのJAグループの代表機能、グループ間の調整機能、そして、経営の支援、こういったことを機能として持った組織でございます。具体的には農業者の所得向上に資する、いわゆる農業政策の提言、そして、JA間、事業間の調整、さらには役職員の教育とか、地域の暮らしの振興のためのお手伝いなどしております。

Aichi Sky Expoの関係で申しますと、来年の6月に食育推進全国大会が開催される予定でございます。その場にJAグループも出展するという事で予定をさせていただいております。この場ではJAグループとして農業者の生産や販売のみならず、地域農業の大切さ、文化面とか、いわゆる農業生産以外の部分について農業の持つ多面的な機能、環境保全とか、防災の機能とか、いろいろな機能を持ち合わせておりますので、そういったことをより多くの人に理解していただくいい機会ではないかなと考えております。

愛知県はトヨタ自動車をはじめ、製造業日本一ということでよく知られている一方で、中部地区最大の農業県でもあるということで、全国第7位の農業産出額を誇っております。金額で申しますと3,200億円という数値でございます。愛知県では、キャベツとか、花とか、イチジクとか、変わったところで申しますとギンナンとか、いろいろと日本一の産物がたくさんございまして、こういったものがなかなか日本全国で知られていない。また、愛知県民も知らない。

特に気になっていることは、食料自給率の問題がよく言われるわけですが、愛知県というのは名古屋市民を抱えているにもかかわらず、愛知県内での食料自給率が1割程

度ということで、なかなか県内の農産物がしっかり地域で還元されていない、こういう課題も認識しております。

今回、Aichi Sky Expoでは、農業の大切さ、食の大切さを子供たちにもしっかり理解をしていただこうと。食のクイズ、こういったものを行いながら、小さいうちから食の大切さ、農業の大切さなどを知っていただくいい機会にしていきたいなと思います。

先ほど、地域への貢献というのがこのAichi Sky Expoの1つの役割だということをモルガンさんがおっしゃっていたわけでありますが、人口がこれから減少していくという中で、元気な愛知、これを続けるには食と農の面で申しますと、愛知県の食の素晴らしさ、名古屋飯という言葉もあります。そして、愛知にはたくさん日本一の食材もごぞいます。そういったものをコラボレートして、素晴らしい食、農についてインバウンドの形でAichi Sky Expoで体験をして、食べていただいて、そういったものを動画クリエイターの方にも来ていただいて世界に発信をしていただく、そういったことで元気な愛知ができるのではないかなと考えておまして、そういった取組を進められるといいなと思っております。

**【知事】** ありがとうございます。それでは、また後ほど御意見をいただければと思います。続きまして、愛知eスポーツ連合の代表で名古屋OJA株式会社の社長であります片桐さん、お願いいたします。

**【片桐】** こんにちは。名古屋出身でございまして、35年ほど前に東大手という名鉄の駅で降りて愛知県体育館まで毎週3回ほど、プールと体操に通っておりました。そんなスポーツ好きの両親に育てられましたので、大学で自分の将来をどうするんだという時にプロスポーツのビジネスに興味を持ちまして、野球部ではない人間で初めてプロ野球のビジネスマンになったという世代でございます。

私がプロ野球に入った頃は、プロ野球は日本の新聞社が80年前につくって、地上波のビジネスモデルの中でコンテンツとして育ててもらって、大変花形の時でした。95年、96年は巨人軍の売り上げが240億円、世界一売り上げの高いスポーツクラブであったと教えられました。これが95年、96年をピークというか、それから少しずつ伸びているんですが、相対的に世界のリーグに遅れをとるといような時代をビジネスマンとしてプロ野球で過ごしております。

理由は簡単でございまして、野茂選手が海を渡り、イチローさんが海を渡り、ばったばったと三振をとり、がんがんヒットを打つと。日本人としては大変胸のすく思いで応援したんでございますが、実は最強のコンテンツが海を渡り、スポンサーのお金が海を渡り、

NHKの放映権料がアメリカに行き、みたいな時代でございます。

これを世界規模でやられているというのが日本のスポーツビジネスでございます。10年前のGDPをそれぞれの地図に大きさを張りつけたというのがございまして、アメリカ、ヨーロッパ、この2軸にアジアからどんどんコンテンツが流れ、お金が流れていくというのがマクロに見たスポーツビジネスの現状でした。これに危機感を、当時、若手でありました私どもプロ野球ビジネスマンは感じて、リーグビジネスを始めるというようなことをやったりということでございます。また、個人的にはそれ以上の使命感を持って中国に渡り、台湾、シンガポール、インドネシアでスポーツビジネスを展開していたというのが私の今まででございます。

その延長でeスポーツというものを始めておりますが、アメリカの4大スポーツとコンテンツビジネスとが結びついたeスポーツの軸が既にできております。一方で、既存のIOCやFIFAと結びついてサッカーゲームだったり、オリンピックの中にeスポーツが入っていくという軸が既にでき上がりつつあります。また、そこに国策企業として資金を供給したり、買い取ったりと。中国の「テンセント」がいたり、「アリババ」がいたりというような企業群がありますが、半分国家です。2,000年昔からやはり三つ巴というのが一番バランスのいい形ですが、ここに日本人の意地として何とか4つで回せていけないだろうかというのが今私が考えているeスポーツの課題です。この親日のアジアと日本が組んで、ビジネスの柱を作りたいという思いでeスポーツに取り組んでおります。

eスポーツのプロパティを4つほど運営しております。その中心となっているのが名古屋OJAというeスポーツのチームでございます。尾張三河の「O」、ジャパンの「J」、アジアの「A」で「OJA」です。

大変よきリーグに所属をさせていただいております、所属したリーグがそのうち育ってきたということです。元の業界の仲間たちがどんどんeスポーツのリーグに入ってきてくれて、ソフトバンクがいて、読売ジャイアンツがジャイアンツ掛けるゲーミング、「GXG」というチームが入っていて、日本テレビが持っていて、マリノスがいてBリーグのレバンガ北海道がいるというリーグでございます。これが1日に100万人ほどの視聴者を集めるというふうなコンテンツに育っているというのが現在でございます。

プロ野球の地上波と一緒に番組を作っていた人たちがこの世界にも大分入ってきてくれていて、こんな番組などを作ってインターネットで放送しています。これは選手のヒューマンストーリーなんですけど、御覧ください。



(ビデオ上映)

【片桐】 こんなことを考えて運営していて、普段選手に伝えていることを選手がやっ  
と自分の口で言ってもらえるようになったと、大変嬉しいことでございます。

名古屋を元気にしたい、日本を元気にしたい、生産性を高めるということであったり、  
ゲーム産業というのは日本のお家芸である時代が長かったんです。実はもう中国に抜かれ  
て久しいんですが、そういう残滓が残っているうちにそれを大きくしたいと思っております。

また、eスポーツは筋肉がなくても戦えるというところがございまして、障害者の方  
のキャリアにもなったらいいなと思っております。

こんなことを真摯にやっておりますと新聞にも取り上げていただいて、今まで家庭の中  
でも自分の立場がなかった選手たちがお父さん、お母さんに認められて、これに載った次  
の日には、普段行き来のないおじいちゃん、おばあちゃんがこれはおまえかとやってきた  
というような嬉しい報告もいただいております。

【知事】 ありがとうございます。また後ほど御意見をいただければと思いますので、  
よろしく願いいたします。それでは、続きまして、知多半島観光圏協議会の松見直美所  
長さん、よろしく願いいたします。

【松見】 松見と申します。よろしく申し上げます。

まず、知多半島観光圏協議会を少し御紹介させていただこうと思います。

知多半島は、大府、東海市、北から先端の南知多町まで5市5町あります。平成の合併で  
南セントレア市になろうかというようなのがニュースになったこともあったかと思うんで  
すが、平成の合併は1つも起こりませんでした。その中で平成20年度に観光庁が発足以後、  
広域観光圏というところで観光推進という政策が出されました。知多半島については、平  
成18年度に日本福祉大学のシンクタンクがベースになって、当時、「知多ソフィア観光ネ  
ットワーク」という民間を中心にした観光組織が発足していましたので、それをベースに  
して知多半島観光圏というところを観光庁に申請しようという動きが平成20年後半ぐら  
いからありまして、平成22年度に愛知県内で唯一、広域観光圏に認定していただいて、合併  
は行政的にしなかったんですけど、観光政策は何とか知多半島1つで特に外へのPRをして  
いこうと動き出しました。

観光圏の認定は実は5年間ということですので、認定が切れるタイミングをどうするか  
というのが話し合わせ、平成26年度から今私が勤めさせていただいている事業推進事務所

という専任職員を置いてフロントで動くというふうに舵を切りました。ですので、最初の4年間は、協議会はほぼ会議体です。5市5町の観光担当なり課長とかが集まってきて、年間の情報交換というか、意見交換をする程度でしたが、5年目から観光圏の認定が切れる前にフロントを置いてホームページを整え、プロモーションをささやかながらでも動くという体制で動き出しました。

実は私、当時は半田市観光協会の事務局長です。観光圏の事業推進を専任職員が1人しか置けないような予算規模の中、どうしていくかというのがありまして、幹事市の半田市の観光協会に同居して知多半島の観光を動かしていくということでしたので、実は昨年3月に半田市の観光協会の事務局長を60もはるかに超したということです。ずっと次長としてパートナーでやってきた若者に渡すことができ、これでそろそろ卒業だなと思っていたところ、この事業推進の担当職員が卒業されるということで、経験も踏まえて、事務局推進事務所をあと2年ほどは担当して次につなぐつなぎ目役をという話をいただいたので、今2年目を迎えております。来年春をどういうふうに迎えるのかなと若干考えておりますが、少し自分のことをこういう役割を持ってきた経緯をお話しさせていただこうと思います。

高校卒業のタイミングで実は愛知県庁と愛知県警の採用試験を受けていたんですが、採用通知をいただいたのが自分でも意外に愛知県警だったので、警察官として10年働かせていただきました。その経験が今、多分、5市5町の皆さんから松見で今のところがいいんじゃないかと言っている1つだと思います。短い期間ですけど、公務員を経験させていただいていますので、予算の使い方、民間と違う部分をどうつないでいくかという役割が私の中に少しあることが皆さんからお声をかけていただいているのが1つ。もう1つ、私が社会に出始めた頃、男女雇用機会均等法が入ってくるタイミングでした。私自身も10年働いて辞める理由が、結婚しても仕事を続けていました。出産しても続けていました。ただ、親の介護が入ってきた時にどうしても仕事が続けられなくなって、専業主婦というか、子育てと介護に戻りました。ただ、介護はあまりにもあっけなく終わって、子供たちも育っていく中でもう一度社会と関わりが持ちたいと思った時に時代の速度が速過ぎて、もう一度フルタイムで働くという自信が自分の中にはありませんでしたので、ボランティアから地域と関わらせていただきたいと思って、自分の経験から託児をしてお母さんたちが学ぶ場を支えさせていただくとか、少し障害をお持ちのお子さんの居場所づくりをして、子育てに悩んでいるお母さんがもうちょっと社会に関われるきっかけを持たせていただけたらなという活動で20年ほどを過ごさせていただいている間に、NPOが活躍する時代が来

て、半田市の観光協会のNPO法人化のお手伝いを当時、市民活動NPOセンターのコーディネーターとしてお手伝いさせていただいたのがきっかけで、結局その1年後ぐらいにNPO法人になった観光協会の事務局責任者がいないということで自分が担当させていただいて、まさか人生50を過ぎて観光という分野で働かせていただくとは思っていませんでした。ただ、時代が観光まちづくりという言葉が今すごく動くように、今までの観光のイメージではディズニーランドとか、お城とか温泉がないところで観光というのがなかなか成立しない時代から、地域で隠れた資源とか、ニッチなものでもちゃんと見てもらうものを整えればお客様に喜んでいただけるというちょうど時代が変化するこの12、3年の間だったので、私みたいに公務員と子育てしか経験したことがない、でも、地域のことをよく知っているという人間が観光という分野で少しお役に立つようになって今を迎えていると思っています。

Aichi Sky Expoが開業するまでの話をこの前半の時間で少しさせていただきたいと思うんですが、観光圏、5市5町、合併していないところをどうしていくかというところで、最大の要素は、愛知県有料道路運営等事業の民営化、「愛知道路コンセッション」です。昨年7月にパーキングエリアがリニューアルされるというのをその前の年とかで情報をいただいたんですが、その段階で特に阿久比パーキングエリアの情報コーナーに知多半島の情報を充実させていただけると次につながるということを道路コンセッションのスタッフさんから早い段階でお話をいただきました。ですので、観光圏としては昨年度の予算にそういうものを計上させていただきました。そのつながりで、Aichi Sky Expoの今年の8月のオープンまでに間に合うように知多半島の観光情報のパンフレットを調べて知多半島の情報発信をよりできるようにしていく。その上で、空港から名古屋とか、高山とか、東京とかに今はどうしても流れる方が多いんですが、少しでも知多半島に魅力を感じて知多半島に足を落としていただける方を増やしていくというのが今の観光圏協議会の役割ですし、そこで働かせていただいている事業推進はよりその部分に呼応していき、5市5町に還元できるようにしていく、それが今の役割だなと思っています。

**【知事】** ありがとうございます。また後ほど御意見をいただければと思っております。それでは、最後になりましたが、愛知淑徳大学交流文化学部の林教授からお願いいたします。

**【林】** 愛知淑徳大学交流文化学部の林です。よろしく申し上げます。

自分の肩書でいろいろな取組をやっている団体を書かせていただいているんですが、大

学と並行していろいろな活動をさせていただいております、今日も前半と後半でお時間をいただけるということで、前半では自身の取組をお話しさせていただいて、後半で特にAichi Sky Expoとの関わり、それから、思いみたいなものをお話しさせていただきたいんですが、中でも、最初の御紹介の時にもありましたように、常滑市の指定文化財の「廻船問屋瀧田家」という古民家のお屋敷なんです、その運営をこの4月からさせていただくことになりまして、この文化財の観光活用みたいなことをテーマに「ボンド」という団体を立ち上げて活動させていただいております。この4月からは大学の講義をぎりぎりまでやって、星ヶ丘の大学を飛び出して名鉄電車に乗って常滑に通うという日々をずっと送ってまいりまして、その中でいろいろ感じたことをお話ししたいですし、それから、このAichi Sky Expoができたということで、先ほどモルガン社長がおっしゃっていたデスティネーションの地の愛知というのをPRしていただくといった時の受け皿の1つとして僕らがどんなことをできるのかというのをすごく感じておりますし、潜在ニーズとして大きなものがあるわけですから、そこをどういうふうに顧客満足度を私どもの受け皿としてできるかということをお考えしておりますので、それは後編でお話しさせていただきます。その前段として私の活動を少しお話しさせていただきます。

今、松見さんからお話があったように、観光まちづくりというのが観光と住みやすさのバランスをとるという形の中で注目されておまして、私もそれを大学の専門のテーマにさせていただいております。ただし、2014年からと書いてありますように、私は民間の出身でして、もともとは中部日本放送で最初は報道から、営業から、イベントから、番組からということで、最後は編成部というところで番組の企画をやっておりました。ですから、片桐さんのお話を聞いてメディアが大きく変わっていく、そういうダイナミズムも感じられたのかなと思っておりますが、そういう経験値も生かしながら大学教員としても地域との連携というのを頑張っていきたいなと思っているところです。

民間企業から来たということで、いろいろお声がけをいただいて、様々な事業に関わらせていただいておりますので、それをまずは前段で御紹介させていただきます。

もともとCBC在籍当時から市民大学の「なごや朝大学」というものを主催しておりました、これまで6年間で400人ぐらいの方々とか、こういう地域の魅力的なこととか、おもしろいこととか、素敵なものを応援していこうということで、平日の朝7時台に社会人の方が仕事の前に集まって勉強してきたと。もともとは名古屋、愛知県にはそういう人たちはいないんだと言われたんですけども、おかげさまで延べ400人の方々とかいろいろなことをや

ってきました。お金も取ってやっているということで、お金を払って朝から勉強するというのは意外と変わった方が多いので、ほんとうにおもしろいいろいろな取組ができたと思っています。もちろん名古屋駅だったり、栄だったりとか、あと、三河の方へ行ったりとか、蒲郡だったりとか、三重の方とか、いろいろな地区の方々とか首長の方々にも応援いただいて、その地域の活性化を考えていくというようなことをやっておりました。

そういう中でいろいろ気づいたのは、まちの人たちの気持ちとか、その人たち自身、その人たちが少しでもいい方向へ動いていくとまちの風景が変わっていくんだと。その風景が1つ1つは小さくても、つくっていくことがこの地域のポテンシャルにつながっていく、発信につながっていくんだということを思いましたので、小さなステップからでも1つ1つ積み上げていくということが必要だということをしごくこの活動を通じて感じたことです。

それから、映像の放送局におりましたので、その時のご縁で名古屋出身の映画監督の堤幸彦さんのもとの、これはずっと引き続き大学が変わってからも携わらせていただいているんですが、映像で地域を盛り上げていくということで、映像の力というものを信じて活動していくということと一緒にやらせていただいています。偶然にも僕は4月から常滑に入らせていただいていますので、その中でいろいろな常滑のことも一緒にやらせていただくと思っています。

あと、自分は放送出身ですけれども、ユーチューブで地域の魅力を伝えるとか、三河のこととか、新城のこととか、スポーツで新城を変えていこうということとか、一宮は産業観光ですね。これがどういうふうになり立つのかなんていうことをやっております、常滑の文化財についての活用方法、それをどうやってAichi Sky Expoの受け皿とさせていただけるかというところを後編でお話しさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

**【知事】** ありがとうございます。6名の方に一通り御意見をお伺いしました。それでは、1巡いたしましたので、またモルガンさんから御意見なり、皆さんへの御質問があれば、何なりと結構でございますので、御発言いただきたいと思います。

**【モルガン】** 我々、Aichi Sky Expoがこれからどういうふうに貢献できるかどうかというのは、皆さんの意見を聞いて、ほんとうに無限の可能性があると思います。しかし、その無限の可能性の中では我々と一緒に幾つかの戦略を選ばなければならないと思いますけれども、その中で今日はeスポーツの話が出てきて、地域をアピールするためには、今私が考えたのは、例えばリージョン、アジアの大会とかを主催できればいいなと思ってい

て、もちろんもしそういうイベントを誘致したら、開催したら、泊まる、移動する、食べる、そして、地域のよさ、要するにツーリズムを味わう。要するにインバウンドの方に来てもらったら素晴らしい機会だと思います。そして、近い将来には、来年から5Gが具体的に使えることとなりますので、地域の強いブランディングをするきっかけになると思いますので、これから我々の経営委員会でも具体的な意見交換とアクションプランを作ればよいなと思っています。

【知事】 ありがとうございます。それでは、岩瀬さん。

【岩瀬】 皆さん方からいろんな意見が聞けて私自身も非常に勉強になっております。このAichi Sky Expoが成功していくためには、いわゆるMICEと言われている事業を獲得していかなきゃいけないわけなんですけど、国内を見ますと、東京だとか、横浜だとか、福岡だとか、また、近隣のグローバル的に見ましてもソウルだとか、シンガポールのそういったライバルからこの地に誘致しなきゃいけないわけなんですけれど、私は「5つのS」という言葉が、先ほどモルガン社長が言われましたデスティネーションになる要素かなと思っております、1つ目は、これが根幹的な問題なんですけど、「Safety（セーフティー）」のSでございまして、我々のアクセスもそうですし、建物もそうですし、そのまち全体がセーフティーでなければいけないということ、これが第一条件のSだと思っております。

2番目のSといたしまして、先ほども出ていましたけど、「Sightseeing（サイトシーイング）」のSで、単なる施設だけではなくてエリア全体、観光的な魅力が十分あって、訪れたいまちであるかということのサイトシーイング、そして、3つ目は、多くの方に来ていただくわけですから、「Stay（ステイ）」のSで、私どもホテルでもあるんですが、地元の食を楽しみながら宿泊できる施設、客室が十分にあるかということでございます。

4つ目のSは、「Shopping（ショッピング）」のSでして、遠隔地から来たりする方、海外から来たりする方の楽しみの1つは買い物であり、参加者の楽しみの1つであるわけですので、デスティネーションになるにはショッピングは欠かせないSかなと思っております。

そして、最後のSは「Surprise（サプライズ）」のSでございますけれど、各地と戦っていくためには誘致へのソフト的な施策でもあるかもしれませんが、また、ゲストへのもてなしという意味でもあるかもしれませんが、ここにしかないものだとか、ことだとか、そういったものが提供できるかどうかということが大切だと思っております、これらのSのレベルを上げていくことが必要かなと思っております。

その前提といたしまして、1のデスティネーションになるためには、点というよりも面と面との戦いになっていると思いますので、これをオール愛知でというのか、ここにいる皆さん方もそうだと思いますけど、一体となってスクラムを組んで情報交換をしながら、そういったものを誘致できるような何か組織体のものが必要かなと考えております。我々名鉄グループもそういったものに対して全面的に協力していきたいと考えております。

【知事】 ありがとうございます。続きまして、加藤さん、お願いします。

【加藤】 Aichi Sky Expoにつきましては、大きな施設だということと、空港に直結していると、こういったものが強みだと考えておりますが、我々JAグループだけで有効活用するのはなかなか難しいなとは思いますが、一方で、いろいろな業界の皆さん方とともに元気な愛知づくりのために参画することはすごく有意義なことだと考えております。

東京では、食の関係でいいますと、「日本の食品」輸出EXPOとか、「アグリフードEXPO」とか、また、花でいうと「ジャパンカップ」とか、いろいろな大きなイベントが開かれております。そういったものを誘致するのも1つの方法だと思いますが、先ほど元気な地域づくり、地域への貢献のためにこのAichi Sky Expoを活用する方法があるとおっしゃったわけですが、私はJAグループの仕事をやっておりまして、地域を元気にする、愛知を元気にするには3つの健康が大事だと思っております。

1つは心が豊かであること、2つ目はお金に余裕があること、所得が一定程度あること、そして、高齢になっても元気でおられること、この3つの健康がすごく大切だと思っております。こういったことをインバウンドの方々を知っていただけるというのはすごく魅力だと思っております。お金を支払って愛知へ来て、食とか農を体験する。体を動かして健康にもなる。そして、よかったなという感動がある。こういった取組が小さなものかも知りませんが、愛知県各所でいろんな特徴がありますので、そういったことを線で結んでいく。そういった体験をしていただいて、愛知の魅力を感じてもらってリピーターになってもらう。こういった取組って素晴らしいと思っております。

一方で、先ほどの東京で開かれたような食品の輸出関係で申しますと、県内でもJAあいち知多ではイチジクを既に輸出しておりますし、また、先日、お茶の農家の方とお話をしましたが、ヨーロッパへ行って自分のお茶の宣伝をして一定の取引に結びつけて苦勞なさっている話も伺いました。そういった場づくりとしてあの場を活用するというのも1つの方法ではないかな、こう思いますし、一方で、名古屋の魅力ってやっぱり名古屋飯だと

考えておりました、その食材というのは我々愛知の農産物だと。例えばきしめん、みそ煮込みうどん、これは皆さん御案内かどうかわかりませんが、愛知県でとれた「きぬあかり」というのが麺に適した小麦でありまして、こういったものを活用しておりますし、すき焼きの代わりにこの地方では「ひきずり」という言葉を使うわけですが、名古屋コーチンを入れたり、また、東京にはないやわらかいネギ、「越津ねぎ」というようなものを使ってすき焼きにしたりしていますし、また、岡崎のみそ、有名でありますけれども、これも三河産の大豆を使っています。こういったものをインバウンドの方々、そして、日本国中の方々にもっと知っていただいて名古屋の魅力を発信する。その起点にこのAichi Sky Expoを活用できたらいいなと考えております。

いずれにいたしましても、素晴らしい場所をつくっていただいたので、こういったものを活用して、これから愛知県も人口が他の地域から集まってくるかもわかりませんが、将来はやはり少なくなっていく、そういう傾向の中で世界から集まってくる愛知になって欲しいなと、こんな思いがございまして、そういった提言ができればということで本日は参りました。

**【知事】** ありがとうございます。それでは、続きまして、名古屋OJAの片桐さん、お願いします。

**【片桐】** eスポーツについて深く御説明させていただきます。

私、プロ野球の楽天ゴールデンイーグルスという球団をつくった時の仲間たちが起業家として大変有名になったり、たくさんCMを打つ会社の社長をやっていたり、中にはスポーツビジネスをずっと突き詰めていく私のような人間も何人かおりました、そのうちの仲間たちが東京ヴェルディーというチームの再生をしております。なので、そこの手伝いをさせていただいているんですが、さすがにeスポーツが楽し過ぎて、その全体を見ることができないので、eスポーツだけをちょっと切り出そうということでやらせていただいているという御紹介をさせていただきたいと思います。

昔のスポーツの融合みたいなところの説明がここでできるかなと思っております。東京ヴェルディー、50周年でございまして、50年前に日本初のプロサッカークラブとして読売ジャイアンツがある読売グループが世界に向けたコンテンツとしてつくりました。カズさん、ラモスさんの時に栄華を極めたということでございました。50年間このエンブレムを使ってきました。始祖鳥でございまして、始めてのということでございます。

ですが、時代が変わり、サッカーもテレビではなくて、何とDAZNというスマホで見る時



代になったんです。今、スカパーじゃございません。地上波でもほとんどやりません。渋谷のスクランブル交差点で青いユニホームを来ているのは年に10回ぐらいです。それ以外はほとんどいないというような状況になっているんです。渋谷のそういう若者にもう一度ブランドを愛してもらうためにはどうすればいいんだということで、リブランド、そこから関わらせていただいたということでございます。

昔の面影は残しつつ、どんどん新しく力強くしていくというふうになりました。可処分所得、可処分時間の奪い合い、特に都会の若者は可処分時間の奪い合いをいろいろなエンターテインメントでやっているところに、スポーツビジネスが巻き込まれています。映画が敵だったり、アマゾンのプライムが敵だったり。そこでいろんなチャンネルのザッピングの中からスポーツを見てもらう、サッカーを見てもらう、サッカーに来てもらうのはなかなか難しいとなると、20分が1コンテンツとなっているeスポーツをちゃんとやっておかなきゃいけないぞと。そこからブランドに触れてもらってサッカーに来てもらえばラッキーだねということで、世界中の都市型のスポーツチームはeスポーツに本気で取り組んでいるというような流れでございます。eスポーツのプロリーグにプロ野球も入ってきているというのは、それは私が半分吹き込んでいる部分もありますけれども、だんだんとそれに皆さんが乗ってきてくれているというようなことでございます。

eスポーツ選手、ヴェルディーはちょっと特殊で、みんなヴェルディーのサッカースクール出身なんですね。みんなサッカーの体をしているので、サッカーのユニホームが似合いますが、他のチームはふくよかだったり、がりがりだったりということがありますので、サッカーユニホームじゃない方がいいよねということもあり、ファッションブランドと組んでいるというようなことでございます。

さて、いよいよ愛知eスポーツ連合なんでもございますが、もともとが日本eスポーツ連合の地方支部認定を受けております。日本eスポーツ連合は何で連合と言っているかということ、日本eスポーツ協会だったり、促進機構だったり、歴史的に3つぐらい目的を違えて競技団体というものがあつたものを大同団結しましょうねということで2年前に連合になりました。そこに、特徴的なんです、世界でも類を見ないんですが、eスポーツというのは知的財産権、IPというものが多く存在しておりまして、大変エコノミクスなんでもございますが、ゲームを作った会社に多くそれがあると。販売している会社ですね。これをIPホルダーといいます。そのIPホルダーの団体であるCESAとJOGA、60代、70代のゲーム草創期の方々が社長をやっているのがCESAでございまして、ゲームショーを主催してい

ます。40、30でゲームの会社の社長をやっている方々がそこに入るとまた1年生をさせられるということで、世代を違えて違うゲームの団体をつくっています。それがジャパン・オンライン・ゲームアソシエーションですね。そこも大同団結してJeSUというものをつくってまして、日本のeスポーツの統括団体です。国際大会がある場合にはそこで代表を選んで送り出すみたいな機能をやっております。そこが今のところ10個だけ地方支部がありまして、私どもが認定を受けているということです。

愛知県のeスポーツにおける3つの特徴がありまして、1つはモルガン社長のこのAichi Sky Expoがあるという事実、これが5Gに対応していて大変機能的で使いやすいということです。2026年に愛知、名古屋共催でアジア大会があり、その種目として採用が有力であると言われている。もしくは我々が頑張っているということでございます。そういう特徴があります。オリンピックが終わった後、eスポーツの中心地は間違いなく愛知になると、そういう土地でございます。

そして、最後になんですけれども、御覧いただいている映像は、何と実写ではなく、ゲームです。お気づきになりましたでしょうか。中に写っている車は全てトヨタのスープラでした。トヨタに行って、これ、ゲームですよねと言うと、リアルドライビングシミュレーターですよと言われます。そのようにゲームの中で速い人間が実車もほんとうに速く操れる、それぐらいリアルなドライビングシミュレーターとして機能していて、この世界チャンピオンたちがトヨタ自動車の会社に入っているという時代になっています。実車の開発をしているんだそうです。

この大会はトヨタ自動車が開催して先週末のモーターショーで決勝の大会をやった「グランツーリスモ」のワンメイクのゲームの大会でした。それが3月にニュースで流れたところ、トヨタ系列の企業の方々から私どもに御連絡をいただいて、eスポーツって何だ、説明しろと。最初は個別で御対応させていただいていたんですが、なかなか人数が多くなってきましたので、まずは皆様、お集まりくださいとあってゲーム大会をやったのがこれでございます。

名古屋市内のネットワーク会社の会場で国体の種目にもなっているサッカーのゲームで大会をやったんですけれども、最初、堅い感じでも2時間後には大変仲よくなるというようなコンテンツでございます。会社の取締役もいらっちゃって、新入社員を中心に組んだチームを会社の威信をかけて戦うんだぞと激励している図があったと、そういうような勉強会と称してeスポーツの大会をやるというようなどころから企業間同士のコミュニケー

ションを図っているというのが今のところの愛知eスポーツ連合でございます。

これは経産省から言われまして、JeSU日本eスポーツ連合がまとめた資料でございますが、大変産業の裾野が広い、可能性があるというのがeスポーツの特徴でございます、ゲーム産業だけではなくて、私どもとしては今まで遠いよねと思っていたものも日本経済新聞で取り上げていただいています。つまり、ゲームであったり、能動的に何かデジタルに取り組むということは大変心理的な影響がある。その影響を効果的に使いましょうよということでアプリ創薬みたいなものもeスポーツのすぐ隣にあります。つまり、あなたの事業が、皆様の事業がeスポーツと関わりないんじゃないのみたいなところからどんどん近づいていっている。新しい事業、20代、30代の若手の方々はそこにビジネスチャンスを見出す可能性がありますよということと一緒にeスポーツ連合で企業に御提案させていただいて、皆様にお集まりいただいて勉強会をやったり、eスポーツ大会をやったりして、企業同士のマッチングをしているところでございます。

今年から、茨城国体の文化プログラムではございますが、国体の種目になりました。愛知代表も私どもがCBCと共同で予選をさせていただいて送り出しました。何と開催県に次いで全国で2位になりました。もう少し自慢をさせていただくと、開催県は2チーム出ますからね。47都道府県を8の倍数にするために2チーム出るんですが、愛知は当然1チームでございます。つまり、割る2をすると1位です。

愛知eスポーツ連合としては、産業をつくる、雇用でお返しをする、地元でそういう形でお返しをするというのが目標でございます。夢をつくるeスポーツの競技団体でございますので、大会を運営し、そして、社会に応えます。eスポーツの1つの特徴は、筋肉の量であったり、それに関係なく戦えます。今のところ、目で入力して指で出力するというゲームが多いですから、入力から出力までの経路が短い、そこの中に障害がなければ皆さん一緒に戦えると。大変裾野が広いという競技人口を持っておりますので、そんなところを皆さんにお伝えすることでどんどん産業をつくっていきたい。つまり、大会をつくり、産業展をぜひ展示会場でやらせていただきたいと思います。と思っております。

事務局のメンバーでございますが、今傍聴席に加えさせていただいておりますが、黒澤という者と、もう一人は、eスポーツのプロ選手でもあります。eスポーツのさらに特徴としては、私がもともとプロのスポーツの世界にいた時はもう筋骨隆々として、数億円かけてドラフトで入ってきてもらいますから、もうプリンカーをつけて、野球とかサッカー以外はさせないんですよ。そうすると、名選手ほど長くやりますので、40歳で引退した時

に新幹線のチケットが買えるか、買えないかみたいな大人をつくってしまう。これをスポーツ選手のセカンドキャリア問題と言いました。こういうことにならないように、今からデュアルキャリアで走ってもらっているというのがeスポーツの世界です。

最後に、来週、まさにモルガン社長の会場でeスポーツの世界大会が行われます。そのプロモーションビデオです。eスポーツの大会なのに観光の動画を入れる。まさに目的、観光、これが1つになっていますね。これは日本の会社の大会ではございませんが、世界大会を日本で開いていただけると。日本の会社とこのような大会をどんどん中部国際空港のAichi Sky Expoでつくるということが私どもの使命であると感じておりますので、いろいろ御指導いただければと思います。

【知事】 ありがとうございます。これは今度やるということですか。

【片桐】 まさにここで11月の9、10です。

【知事】 9、10の土日ですね。

【片桐】 そうですね。

【知事】 あっ、そうですか。主催はどこ。

【片桐】 ユービーアイソフトという……。

【知事】 日本の会社？

【片桐】 いいえ、フランスの会社です。ですが、CBCが後ろ側をやっていただいております。

【モルガン】 フランスも関わっています。だから、今、Aichi Sky Expoのチームが毎日フランスとやりとりして、フランスと日本にあるLive Nationの事務所とAichi Sky Expoですね。

【知事】 これをやるんですね。そうですか。それは楽しみですね。またぜひ盛り上げていただければと思います。

【モルガン】 初めての海外のイベントとなります。これはLive Nationがやりますので、これから日本の国内で同じようなことがしたいんでしょうね。よろしくお願いします。

【知事】 今年、オープニングのイベントで「AICHI IMPACT!2019」をやりましたのでね、eスポーツの。あれを1回で終わらせるというわけにはね、もったいないので。やっぱりつなげていきたいですね。

【片桐】 ありがとうございます。

【知事】 それと、アジア大会が去年、2018年のジャカルタの大会もeスポーツはエキ

シビションでやりましたので、次は中国のハンチョウですよ。

【片桐】 ハンチョウですね。

【知事】 アリババの本拠地ですもんね。何か間違いなくやると思うんですけどね。

【片桐】 そう言われています。

【知事】 次、うちですからね、ハンチョウの後は。またしっかりAichi Sky Expoを使いながら盛り上げていければと思いますので、よろしくお願いします。それでは、続きまして、松見さん、お願いします。

【松見】 知多半島観光圏協議会として正式にAichi Sky Expoに今年度関わらせていただくのは、オープニングの時に知多半島のPRブースを出させていただいたり、少し半田市から借りて祭りのまちだよというのをアピールするようなディスプレイをさせていただいたりというのと、11月にあります技能五輪で、外の多目的広場に知多半島グルメフェスタということでキッチンカーを始め、32店舗を出させていただきます。知多半島グルメフェスタなんですが、知多半島の店舗に限るわけではなく、さっき加藤専務からお話があったように、結構、知多半島外のお店もありますので、名古屋市とか、他の三河エリアからも出店していただく方もいるみたいです。アビリンピックの方は、授産施設とかのもので少しコーナーを県の労働局で作っていただけるということですので、そこを紹介させていただくつなぎをさせていただいています。

年が明けた1月25、26、愛知・知多半島マーケットということで、県の観光振興課と知多半島の共同で2日間、催事をやらせていただくというのが公式的に動いているんですが、実は先ほどお話ししたみたいにAichi Sky Expoがオープンする前から少しパンフレットを作ったりと、私たち観光関係者は動いてきたんですが、周りですね。年末年始、春休みとかに、地域住民というか、私の古巣のボランティアとか、NPOとか、いろんな分野でやっているメンバーから今どんな仕事をしているのと声をかけられ、8月終わりに空港にできる国際展示場の準備をしているんですよと話をすると、知多半島に住んでいる多くの方は、国際展示場というところだから国際会議とかが開かれていて、私たちにあまり関係ないのよね、というのが今年の寒いころの私の周りの反応だったんです。さっきお話があったように、幕張メッセがあって、東京ビッグサイトがあって、先週も「ツーリズムEXPOジャパン」がインテックス大阪であったので、4日間、5日間、出張で行かせていただいたんですけど、ローカルな半島で日常の暮らしをしている人にとってみると国際展示場というものはちょっと雲の上かどこかという感じがあるというのが1年前、半年前、すごく切実に感

じたところで、でも、いざ蓋を開けてみると、eスポーツだったり、ライブだったり、30分ぐらいで行ける場所でとても魅力的な企画がやられる場所なんですね。

さっき控えのところでも少しお話しさせていただいたんですが、オープニングのeスポーツの時に最大にその部分を私は体験しました。二十数年前託児のボランティアをしていて、当時赤ちゃんでお預かりした子が今高校生、専門学校生、一番大きい人は大学を卒業して社会人になっていて、時々再会する親子さんがいるんですけど、eスポーツのロビーである親子さんに会いました。息子さんがゲームが大好きで、お母さんはそれをすごい悩みだと思っていたんだけど、ここのオープニングの大会に足を運んで、子供がやっていることの可能性がすごくあるということを感じたお母さんが、「松見さん、久しぶり」と駆け寄ってきてくれて、なぜといったら、「今日、子供がどうしてもこれに来たいというんだけど、初めてAichi Sky Expoへ行くアクセスが心配なので、非常に親心で恥ずかしくついてきたんだけど、子供は意外にしっかりしていて、私が後ろからついて、Aホールはどこ、何々ホールはどこみたいなことをやっていたんだけど、野球とかサッカーじゃないスポーツに可能性がない自分の子供の評価を卑下していたんだけど、今日うんと思いが変わったので、これから明るい親子関係が持てそうだわ。」と話していました。

せっかく地域でそういうものが開かれるのであれば、知多半島で農業をやっている人はうんと食材販路が広がりますし、Aichi Sky Expoとかが動いたことに幾らでも関わり方があるな、ということをもうちよっと地域の皆さんに伝える役割をしながら、おもてなし力を知多半島で上げていって、大きなパイのお客様は受け止められないですが、少しずつおもてなし力で来ていただいて、結果的には消費額、知多半島の市町の観光に関わることによってお店だったりの客単価だったり、消費額が上がって、観光ということを経口にしたことによっていろいろな関わりができてきたね、というところを目指していくのがこの後、知多半島の観光の10年のところの可能性かなと思います。

振り返れば、セントレアができるといった時の15年前に、私たちはそういうところに取り組んでいたはずですけど、セントレアが普通にランニングしてくれるようになって、一回知多半島に住んでいる皆さんは落ち着いちゃったことがあるところをもう一度呼び起こせるといいのかな、と考えている今日この頃です。

**【知事】** ありがとうございます。それでは、林先生、お願いします。

**【林】** 自己紹介の最後で「廻船問屋瀧田家」という文化財の御紹介をさせていただきましたが、この文化財を核として常滑の観光構想、それから、Aichi Sky Expoとの連携構

想というのを私たちなりにどう考えているかということをお紹介させていただきたいと思っています。

この4月からこの運営をするために「一般社団法人ボンド」というものを立ち上げまして、市原さんという建築家が、円頓寺の再生を中心人物でやられた建築家の方、そして私と、あと、地元で常滑焼の新しいスタイルを模索されている「トコナメストア」というものを立ち上げた鯉江さんという方にもサポートさせていただいてこの団体をつくっています。地域のいろいろなものを結びつきたいという意味のボンドで立ち上げましたので、そういうことをやっていきたいなと思っております。

今回のきっかけは、常滑やきもの散歩道の中にある瀧田家と、展示工房館という2つの観光活用をどうしていくかという相談を地元の方々から受けていた中で運営までやらせていただくことになりました。ご存じない方もいらっしゃると思いますので、ちょっとだけ御紹介すると、この瀧田家というのは江戸時代から明治にかけて廻船業を営んでいた瀧田家の住宅でして、もう170年ぐらい前に建築されていたものが朽ちてしまったものを常滑市が復元、整備して、2000年に公開したものです。貴重な資料も残っておりますし、復元の状態もいい形になっております。これをぜひ価値につなげたいなと思っておりまして、今は200円で中をさっと見るだけで終わってしまっていますので、ここで何を提供できるかというものを考えております。

それから、もう1つ、この展示工房館という団体で絵つけ体験ができるというものもやっております。こちらの方は陶芸を学ぶ人たちがひとり立ちするまでの間のアーティスト・イン・レジデンスまではいかないですけども、そういうような基地をつくっていただくような活用をしていきたいなと考えております。

特にこの文化財である瀧田家の観光活用に関しては、今、古民家というレベルではいろいろ宿泊であったり、食事だったりとかあると思うんですが、特に文化財ですし、地域に合わせた活用をしていかなくちゃいけないと。特にここ、散歩道というところですけども、住宅街で、夜8時になるとしーんとしてしまうんですね。これを観光活用していくというのは非常に住民の方々の理解も得なくちゃいけないということで、そういうこともやっていきたいと。それから、日本全体的に行政の財政が厳しくなる中でこういう文化財が増えていくので、その1つの先進事例にもなりたいなと思っております。

ここからが本題なんですけど、5年後、5年という時間をまずは目標にして、瀧田家、登窯広場でいろいろなものを結びつけて提供していくことをやりたいですし、それから、

やきもの散歩道にも30万人の方がいらっしやいますし、セントレア、空港島にも1,350万人以上を超える方がいらっしやるので、ここ常滑市に来て、常滑市の地元、足元に来ていただいて、さらにそれを名古屋市、いろいろな地区、愛知県の各地に送り込むということをやりたいと思っています。

ここが重要だと思うんですが、今、観光マーケティングの中で旅マエ、旅ナカ、旅アトみたいなことを言われますけれども、やはりコンベンションに来ていただいた方が明日ちょうど午前中だけ空いたと。ここに対してどういうふうに情報をアクセスしていくかというのがすごく重要で、それをどういうふうにメニューに触れやすく、来ていただいた方に触れやすくするかというのが非常に重要かと思っています。

それと、もう1つは、僕らも新しく外から入ったので最初からは言いづらいんですけども、常滑のものだけじゃなくて、この愛知県のゲートウェイになるべきじゃないかなと。どういうことかと申しますと、ここでショーケースになるべきじゃないかなと。嗜好性が高いもの、陶芸であったりとか、そういうものはいろいろ嗜好性が高い、日本酒も嗜好性が高いと思いますので、常滑のものだけを提示するんじゃなくて、皆さんがそこでトライして、このタイプだったら瀬戸へ行かれた方がいいんじゃないですかとか、このタイプだったら三河の日本酒もありますよということをここでトライしてそちらへ送り出すと、そういうことをショーケースとして機能を持たせたらいいなと思っています。いろいろなものを楽しむということですね。

ということは、この指定文化財という特別な舞台で陶器とか、この地は、食という意味では発酵、醸造という地でもありますし、そういうものを掛け合わせて付加価値のある体験をここでいろいろなものを常滑でトライしてもらって、そして、いろいろな地域に、東海3県、愛知県に送り出していくという機能を持てるようにこの5年間でやっていくと。それをコンベンションに来た方々にいかに情報を伝えるかと。来ていただいた方がこの Destination の地の愛知に行く時に、わくわくするような、コンベンションに続いて、今ワークショップみたいな言い方をしますので、仕事と観光とを合わせた形での価値を提供していくかと。

さっき片桐さんの話を聞いていてスケールが全然違うなと思いましたけど、僕らみたいな地元での小さな取り組みからも整備していくいろいろなこういうものが増えていくことが今度スケールの大きなものと結びつくんじゃないかなと考えておりますので、頑張っていきたいなと思っていますので、お力をぜひお貸しいただきたいなと思っています。



【知事】 ありがとうございます。確かに知多半島っていろんな古い町並みとか、結構ありますよね。あるけど、点々としているんですよ。今の常滑もそうだし、知多市の岡田とか、半田もいいところはあるなと思うんだけど。

【松見】 皆さん、先生みたいに中心で来てくださる方もあるんですけど、今お話に出た知多市の岡田あたりも地ビールが古民家で再生されて、まち歩きがよくなってきますし、2次交通をどうするかが知多半島は課題で、そこが充実すれば半日で回れる可能性は結構空港からでもありますね。

【知事】 ネットワークをどういうふうにつくっていくかということかなと思いますが、我々、今年3年目、JRグループと組んでデスティネーションキャンペーンの大型観光キャンペーンをやってきましたが、2年前に当時の柘植社長が言っておられたのは、愛知県には例えば圧倒的な自然があるとか、圧倒的な国宝級のものがあるとかということはないけれども、ありとあらゆるものがあるということなので、それをつなぎ合わせてネットワークでやって、交通の便はいいということなので。

【松見】 基本的にはほんとうにいいと思うんです、交通の便が。あとちょっとというところをどう地元が工夫するかということだと思います。

【知事】 それで、今、物観光じゃなくて事観光なので、ストーリーを作るという話ですよ。ストーリーを作って回ってもらうということをまた丹念に仕立て上げていくということではないかなと。先ほどの瀧田家はほんとうに素晴らしいものだなと。

【林】 いや、まだまだこれからですので、皆さん、ぜひいろいろなアイデアをいただいたり、貴重なものがいっぱいあるので、先ほど言った、それをどう伝えていくかと、ちゃんと整備した上でどう伝えていくかというのを受け入れて、来ていただいたら分かりずるでは意味がないので、整備しながら、ちょっと情報がとりづらいのがこの地域に共通しているところかなと思いますので、いらっしゃった方にどう情報を届けるかという意味でも、これは今マスの時代じゃなくなっていると思うので、その部分をどういうふうに届けていくかというのはすごく重要だと思います。

【知事】 ありがとうございます。それでは、2巡ぐるっと御意見をいただきましたが、さらにという方、どなたからでも結構です。御意見をいただければ。

【加藤】 先ほどの観光というのか、これからは農業、食だったり、農を通じた観光体験、そういったものがキーワードになるのかなと思うわけでありまして、我々JAグループも民泊という言葉ではなくて、農泊という言葉を使いながら、先ほど各地にいろんな貴重

な家も残っているという話もありましたし、それだけを見学ではあまり付加価値がないんだけど、そこでとれた食材、名古屋流の食べ方、そういったところで感動していただく。そして、愛知県中、点が線になって面になっていく。そういう観光地づくりみたいなものを一緒になってつなげていくと、どちらかというと、中部国際空港へ入ってよその県へ行ってしまうという方も海外の方は多いと聞いたこともあるので、ぜひとも名古屋で感動を感じていただいて、体験していただいてリピーターになってもらう、これがすごく大事ではないかなと思います。そういったことで我々JAグループも農泊というところのソフトの面で一緒になって何かやっていければなと思います。

【知事】 ありがとうございます。

【林】 今、農泊の話が出たので、この4月から常滑に通わせていただいたことがご縁で、実は常滑市と農泊、農水省の農泊事業の申請を我々ボンドが中核団体になって申請させていただきました。ありがたいことに採択をされまして、いよいよ来月からその実施を来期までやっていきます。それがまさに第1次産業、常滑でいうと農業者、漁業者になるわけですが、そこにどうやって、さっき岩瀬さんが言っていたSの1つの「Stay（ステイ）」ですね。できるだけ滞在してもらって農業の体験、食の体験をしてもらった上で第1次産業の方にお金を戻していくかということも瀧田家もまだこれからなのに、それも背負うことになりまして、農泊という部分で、でも、面展開をできるだけ広くしていくと、点じゃなくて面展開をしていくという意味では、常滑に限らず、知多、愛知県という形で農業が盛んなところなので、そのものを陶器というものに乗せて提供できるようなことをやっていきたいと思っておりますので、またそちらの方も御指導いただければと思います。

【知事】 ありがとうございます。さらにという方、いかがでしょうか。どなたからでも結構ですけども、いいですか。

【松見】 そのお話を受けて、知多半島、10個市町があるので、なかなか一遍に面になるにくいんですけど、先生のところみたいにきっかけをつくってくださるリーダーがいると、そこに磁石のようにというのは今わりと市町の枠を超えて動くようになってきているなと思うんですね。今、農泊は南知多、美浜のDMO法人が先行で仕掛けられて、これで常滑市が動かれる。知多半島、農の半島ですね。海に囲まれているので水産も盛んですけど、ほんとうに豊富なお野菜があるので、そういう徐々に面として広がっていくとよいと思います。今ホテルがないまちもあります。あつてビジネスホテルで、市町村によっては

基本的な宿泊施設がないのでうちはこの引きの姿勢の御発言をされるところがあるんですけど、農泊とかで進めていくともっとその部分は充実していく。農泊は、滞在時間が長くなるというのと、御本人たちがSNSで発信するタイプの方が来られるところだと思うので、うんと可能性があって、実は常滑市がわりと早い段階で農泊に取り組みられるというのは知多半島の中でちょっと意外な気がするところがあると思うんですね、焼き物のまちとか空港で。ただ、農業特区をとっていらっしゃるの常滑の2つの農業法人なので、そこで先行で動いていただけるのは非常に知多半島の調整役を担っている中では可能性を感じているところです。6次産業とかから行くところまでは半田の黒牛の里なんかも先行で動いていて可能性があるんですけど、やっぱり滞在時間の延長というところでは泊まるというのは大変大きいので、そこはよろしくお願いします。

【知事】 確かに、世の中空き家ばかりですからね。空き家がどんどん増えていきますからね。そういう活用方策というのが地元の行政にとってどうするかというのが大きな課題ですもんね。

【松見】 愛知県内は大学もあって進学も就職率も高いですねという話をさっき皆さんとしていたんですけど、実は半田とか常滑って産業が豊かな時代に御子息たちを東京とか関西の大学に結構送り出されているので、商売の継承、個人店舗の継承がすごく課題なので、そういう意味では民泊施設になる可能性はあると思います。

【知事】 ありがとうございます。まだまだ御意見、よろしいですか。

先ほど、11月9、10で、あれはAichi Sky ExpoのAホールを使ってやるということですか。eスポーツの大会。

【片桐】 Aではなくて、Bだと思います。

【知事】 Bを使う。それはぜひ一回と思ったら、11月9、10は確かむちゃくちゃ忙しかったと思って。

【片桐】 8,000人の入場券が一瞬で蒸発したと。1日で売れたと。

【知事】 8,000人？

【片桐】 はい。それをCBCさんが受けられたんですけど、全く予想していなくて、局中の電話が鳴って大変だったということを言っていました。

【知事】 2日間で8,000人？

【片桐】 はい。

【知事】 4,000と4,000？

【片桐】 でしたかね。

【岩瀬】 ホテルもいっぱいになっています。

【片桐】 いっぱいですか。

【知事】 うちも11月9、10って万博公園を含めてラリーのイベントをやっていて、来年の11月に世界ラリー選手権の誘致が成功したので、その1年前イベントをやる。いろいろなことをやらないかんのですけど、ぜひeスポーツもどんどん盛り上がっていただければありがたいなと思いますし、個人的には私は、先ほど片桐さんがお話しした、何で日本でスポーツビジネスが開かなかったんだろうとずーっと思ってきた者の1人で、確かに一時、世界でジャイアンツが一番のコンテンツになりましたよね。それがあつという間に抜き去られたというか、置いてきぼりにされてね。

【片桐】 衛星放送の時代に地上波のテレビ局がそこに出ていくモチベーションがなかったということですね。

【知事】 ということなのでしょうね。いろいろな要因はあるんでしょうけどね。でも、この間、つい最近、1年ぐらい前かな、とある何かを見たら、世界で1番プロスポーツ、球団というか、団体、1番ブランド価値があるのはダラス・カウボーイズだと。2番はニューヨーク・ヤンキース、3番がFCバルセロナ、4番がレアル・マドリード、5番がまた大リーグの球団だったかな。何となくそんな感じはわかりますよね。ブランド力でね。かつてはジャイアンツが日本のプロ野球でなっていたはずなんですけどね。

【片桐】 おっしゃるとおりなんです。しかも、それが今、国と国をまたいで、競技もまたいでコングロマリット化しているというのが世界の趨勢です。早く日本にそういう会社が出てきて、また我々もそうなりたいと思っています。

【知事】 FCバルセロナは日本の愛知でも少年サッカーのスクールをやっていますもんね。日本全国何カ所もね。何で日本が置いてきぼりにされたのかなと。何でかという、国際展示場も結局うちがつくって4つ目ですからね。もう次に計画がないのでね、日本には。これは20年間で完全に置いてきぼりにされたということですよね。どう考えても、幕張も大阪ももう年限が経っちゃったので、あれはつくりかえないと使えないじゃないですか。

【片桐】 毎回のイベントのコストが大変高いと伺っています。

【知事】 30年、40年ですもんね。東京ビッグサイトは20年ですもんね。だから、今回、大リニューアルをかける。そうなっていくと、ますますこの分野で展示場とか、見本市と

か、こういうイベント、こういったビジネスマッチングがどんどん立ち遅れるのかと。何とかしなきゃいけないというのでこれを突貫工事でつくったんですけどね。何とかぎりぎりで間に合ったかなという感じがせんでもないんですけど。

【片桐】 御英断に感謝です。

【知事】 ぜひいろいろな面でビジネスマッチングを含めてまた御活用いただければありがたいなと思います。

ということで、今日はほんとうに貴重な御意見をいただきましてありがとうございます。時間も大分経過をいたしましたので、議事は以上とさせていただきたいと思います。

大変興味深い御意見、御提言をたくさんいただきましたので、Aichi Sky Expoをどういう形でさらに発展をさせていくか。一番はモルガン社長に頑張ってもらわないかんわけですが、皆さんの御意見をいただきながらどんどん発展、進化をさせていきたいと思っておりますし、知多半島にありますので、地元知多半島の皆さんとしっかりとネットワークを広げて、そこから体験型でどんどん行っていただけるような企画、仕掛けもしていきたいと思っております。

また、11月15日からはAichi Sky Expoで技能五輪全国大会と全国アビリンピック大会、これを1カ所で全スペースを使ってやります。技能五輪の全国大会と障害者の技能競技大会を1カ所で集めてやるのは今回初めてというか、そんな箱がなかったので、今回いいことは技能五輪全国大会に出てくる選手と障害者の技能競技大会に出てくる選手の交流会を企画していますので、そういう中から若者の技能を盛り上げる、そういう風潮というか、空気をどんどん醸成していければありがたいなと思っております。ちなみに、愛知県は去年まで14年連続、この技能五輪全国大会、圧倒的に勝っておりますので、地元で15連覇ということでやっていければと思っております。

そして、さらに2020年以降も6月は食育推進の全国大会、10月はロボカップアジアパシフィックとワールドロボットサミット、9万平米全部使ったロボットの展示会、見本市と競技大会をやります。さらに11月には2年連続で技能五輪の全国大会とアビリンピックもやるということでありまして、また、様々な大規模な学術総会とか、農業関係、ロボット、そうしたイベントも予定されております。展示場の運営事業者の皆さんと連携して新たな展示会需要の創造にも力を入れていきたいと。2021年にはグローバルインダストリーの日本版、フランスでGLイベントが始めたんですけど、マクロン大統領が肝入りで始めた最先端産業の国際展示会、これを日本に持ってこようということで合意しましたので、

2021年を目標にしっかりと組み立てていければと思います。

いずれにいたしましても、そういったものをこれからも様々に進めてまいります。本日お集まりの皆様には今後ますます御活躍いただき、このAichi Sky Expoが国際的な交流拠点となり、本県の産業力の強化、そして、地域経済の活性化、そしてまた、地域と結びついていくというふうに持っていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げまして、本日の語る会を以上とさせていただきます。どうも今日はありがとうございました。

— 了 —